

さくらだより

第19号
2011年11月15日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6633

http://kyoro.or.jp/



敬老祝賀式

今年も米寿と95歳以上の方々、総勢46名の方にご家族や職員と共に毛氈を進んで頂きました。京都老人ホームでは特養で104歳、養護では103歳が現在最高齢の方です。来年も元気に毛氈を進んで頂きたいと思えます。



CONTENTS

特集 小規模多機能型居宅介護って? 2

事業所だより
 ~稲荷の家ほっこり~ 4
 ~特別養護老人ホーム~ 4
 ~養護介護職員~ 5
 ~うづら保育園~ 5

クラブ紹介
 「子育てサークル」 6

介護保険なんでもQ&A 6



リレーコラム 「今を生きる」 7

職員紹介
 小栗栖の家ほっこり 7

サンタクロースのつくりかた 7

きっちゃんさくら 8
 山形県ご当地弁当

「和喫茶さくら」 8



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会



小規模多機能型居宅介護って？

4事業所紹介

稲荷の家ほっこり

稲荷の家ほっこりでは、1階部分で小規模多機能型居宅介護を、2階部分で子育て支援拠点事業を行なっています。

高齢者の方と小さな子供さん連れの方が一つのお家で一緒に過ごしています。

暑い時期であれば、テラスで子供さんがプール遊びをする様子を高齢者の方がにこやかに、温かなまなざしでご覧になったり、普段は1階と2階でわかれて行なっているので、一緒に交流を図る行事も行なっています。

この秋からは、地域の方も含めてのサークル活動を始めたりと、世代を超えての交流、また、地域との交流も深

めていくけたらと思っ



▲フラワーアレンジメントサークル

小栗栖の家ほっこり

お気軽にお近くの事業所に見学におこしください。



小栗栖の家ほっこりは醍醐支所の北西、小栗栖街道沿いに面して平成21年5月に開所いたしました。

当事業所では小規模多機能以外に、地域密着型特養(18名)と高齢者専用賃貸住宅(14戸)を併設しており、おかげさまでご家族や地域のみなさまに支えていただき、あつという間に丸二年が経過しました。

こちらでは制度の違いこそあれ、同じ「小栗栖の家」のご利用者として相互の交流を行ないつつ「普通の生活を普通に送るための介護」をこれからも実践していきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げますとともに、是非お気軽に遊びに来ていただければと考えております。

皆さん、小規模多機能型居宅介護って知ってられますか？
小規模多機能型居宅介護は、「住み慣れた地域でその人らしく暮らし続ける」ために、平成18年に制度化された新しいサービスです。このサービスは、そうした趣旨から、大きな二つの特徴があります。

一つめの特徴は、ご利用者の状況や体調に応じて通い、訪問、宿泊といったサービスを柔軟に提供出来る点にあります。

例えば、通いの日であっても日中のご利用者の状況から宿泊していただいた方が良く考えられる場合は、そのまま宿泊していただいたり、夕食とお風呂のみが一人で不安だという方であれば、夕食時に通ってきていただき、その後に入浴をされ帰宅されるというような利用が可能になります。その人らしい暮らしは、お一人お一人違います、その違いに応じたきめ細やかなケアを可能にしていることが、最初の大きな特徴といえます。



通いを中心にあなたの生活にあわせて組み合わせることが出来ます。

今までの介護保険サービスでは、ご利用者自身が失った能力に着目し、その失った能力にサービスを導入し補っていくことを主眼としてきました(例えばご利用者が、足が弱くなって買い物に行くことが出来なくなった場合、訪問介護を使ってヘルパーが買い物代行する)。しかし、ご利用者が失われているのは、身体能力だけではなくありません。先の例でいえば、買い物も出来なくなったことで、買い物に行く途中で挨拶をされるご近所の方とお付き合いや買った人間関係も同時に喪失をされています。そして、この人間関係や地域とのつながりこそが、その人らしさを形成している大きな要素になっています。

そこで小規模多機能では、「その人らしさ」を支えるため、ご利用者が以前から持っておられる馴染みの人間関係やお店を大切に、そうしたものを出来る限りケアの中に取り入れ支援をおこなっています。

例えば、利用者が使われていた馴染みのお店の利用やお住まいの学区の地域行事(学区運動会、敬老会等)への参加等を積極的に

こなっています。

このように小規模多機能は、その方が暮らしておられる地域との関係を大切に、その方に必要なサービスを必要な時に提供することで、出来る限り長くご自宅での生活を継続していただくことを目指しています。また、制度化されて五年弱という短い期間しか経っていませんので、様々な問題や課題に直面しながら、試行錯誤してサービス提供をおこなっているのが現状です。ただそうした中でも、最初にお伝えした「住み慣れた地域でその人らしく暮らし続ける」という理念は、ぶれることなく職員一同頑張っていきたいと考えています。

〈利用料金〉

介護度に応じた1ヶ月の定額料金+利用実費
=利用料金総額

*介護度に応じた1ヶ月の定額料金

| | |
|------|---------|
| 要介護1 | 13,325円 |
| 要介護2 | 18,549円 |
| 要介護3 | 25,833円 |
| 要介護4 | 28,271円 |
| 要介護5 | 30,933円 |

*利用実費 泊まり1泊 3,000円
(別途 朝食380円・昼食650円・夕食550円)

板橋の町家ほっこり

板橋の町家ほっこりは、大手筋からも近く、伏見区役所がすぐ近くにあります。近所にはスパーがいくつもあり、近鉄、京阪の駅も近いので交通の便も良いです。皆さんもご存じの寺田屋や竜馬通りもすぐ近所にあります。散歩のコースにも最適です。

事業所は、1階に認知症デイサービス、和喫茶を併設しております。喫茶店があることで、普段喫茶店に行くことが出来ない方に、喫茶店の雰囲気も味わってもらったり、昼食を喫茶店で食べて頂くこともあります。また認知症デイサービスだけでは支援が困難になった方を小規模へ移行することも可能です。事業所自体が変わらないので、変更の際も混乱が最小限に抑えられます。和喫茶は地域の方にも開放しています。近くにお寄りの際は、ぜひお立ち寄り下さい。心よりお待ちしております。

醍醐の家ほっこり



▲おやつ作りにたこ焼きをしました

醍醐の家ほっこりは小規模多機能の他に、居宅介護支援事業所、デイサービス、認知症対応型デイサービス、グループホームを併設した施設になっています。週一回の歌サークル、レクリエーション等で各事業と交流を持っています。

小規模多機能では、ほつとできる空間、ゆったりとした時間、お一人お一人のリズム、人と人との関わり、経験や知識・役割を大切にしたいと考えています。一つの特徴は食事作りを利用者さんと一緒に行っている事です。利用者さんの持っている力を維持して・発揮して頂くことで、住み慣れたご自宅で暮らし続けられるよう支援しています。

▼地域の方の交流の場となっています



事業所だより

事務所横の玄関を入って左へスロープを進んで行くと大食堂があり、そこにはいと見た人の目を釘付けにするくらい力強い、目にも鮮やかな花火の絵が左の窓ガラス一面に、また、右の壁には心和むチューリップ畑が描かれています。この絵を描かれたのは養護に入所されている山下幸次さんです。

山下さんは、旅行と写真と絵を描かれる事が趣味。居室には画材や道具も多く、旅先で描かれた風情のある絵もいくつか飾られ、本格的な腕の持ち主です。

ある日、「沖繩の海の絵を描いてもらえませんか？」とお願いをしたところ、数分後には沖繩の数カ所の海岸の名前を紙に書いてきて下さり「どの風景がいい？」早速、仕事開始。

すると一週間後には額に収められた、何とも穏やかな海が描かれていました。出来上がった絵を、沖繩に特別な思いがあるという利用者さんに見てもらいました。沖繩の海やその風景を懐かしがられて、本当に喜んでおられました。沖繩の話をもつとされる、この方

にその絵をプレゼントすると部屋に飾り毎日、ベッドから眺めておられました。そして、その方が亡くなられた際には、山下さんが「棺の中にいれてあげたら寂しくないのじゃないか」と言ってお下り、その絵と一緒に送りだしてあげました。

大食堂のガラスは四季折々の山下氏ならではのタッチです。現在は秋の風景を描く為、次回のデザインを考えておられます。

利用者さんも職員も大食堂で、絵に囲まれながら楽しい時間を過ごしています。



養護介護職員 前村みゆき

事業所だより

今日のキラリは何かしら？

稲荷の家ほっこり 加川敦士

ある夏の暑い日、スタッフが新聞の折り込みチラシを見て「今日はスイカが特売日みたいですよ」と、利用者さんに話しかけると、利用者さんも「そうね、スイカ食べたいわね」「それ美味しそうね」との嬉しそうな声。その後すぐにチラシを見てスイカを買いに行き、中庭にて仲良くスイカ割りを始めました。



▲スイカ割りに挑戦

まず、初めは、女性利用者さんから、一人目：二人目：なかなかわれず：三人目：「惜しい」スイカに当たると割れず：なかなか割れないな！と思っている所に、四人目の男性利用者さん：「わしがやってみよう」という強い視線で、棒をしっかりと握り、素振りを数回（アンプンと）そして、「エイ!!」



▲スイカ大好き！

そのあと、赤々と色づいたスイカを等分し皆で楽しく食べました。いつも、あまり食欲のない方も、パクパクと笑顔で食べられ、あまり他の方とお話しされない方も、「あんたもたべや」とお話しになり、笑い、笑顔の絶えない楽しい時間をすごすことができました。

稲荷の家ほっこりでは、利用者やスタッフの何気ない日常会話から色々な活動をし、楽しい日々を送れるように心がけています。

昨日はありがとう

特別養護老人ホーム 志田あゆみ

8月27日に京都老人ホームで年に一度のビッグイベント納涼大会が開催されました。毎年多くの利用者さんやご家族、地域の方々の参加があり大盛況です。

今年度はみんながお祭りを楽しめるように：という思いから同敷地内のデイサービスのフロアをお借りし、初めて会場を2つ設置しました。体力的に長時間混雑したメイン会場で過ごす事が負担となる方や、賑やかな空間の苦手な方などはサブ会場でゆったりと過ごされていました。

メインの祭り会場では少し照れた表情で浴衣を着た利用者さんやビールを数杯お代わりしている利



用者さん、炭坑節が流れると前に出てきて踊られる利用者さんなど、普段なかなか見る事の出来ない表情や仕事をたくさん見る事が出来ました。

職員は祭りの最中に事故が無いよう、皆さんが楽しめるようにと大汗をかきながら動き回り、へ口へ口となっていましたが無事にお祭りを終える事が出来ました。

翌日疲れが抜け切れない状態で出勤すると「昨日はどうもありがとう。楽しかった」と笑顔で言ってくれた利用者さん。楽しんでもらえて本当に良かったです。来年も楽しんでもらえるよう頑張ろうと思えました。



生活、遊び、子ども展

うづら保育園 森 浩美

疏水沿いの木々が赤や黄色に色づいた、11月の中旬に、毎年、生活、遊び、子ども展（作品や絵画を保護者の方に見て頂く日）を行っています。日常の遊びから、子ども達が創意工夫して作っています。

うづら保育園では、日々の遊びを大切にしています。子ども達は園庭、室内、農園での遊びの中から、沢山の経験をします。その実体験を原点として、感動した事、工夫した事が、作品となって出来上がります。大人から見れば、ゴミに見える廃材（新聞紙、空き箱、段ボール、どんぐり、落ち葉、洗濯ばさみ）等が子ども達の手にかかれば、創造性豊かなものに変わっていくのです。目を輝かせて遊び、「先生！これみて！」「もっとしたい」と言って時間が経つのを忘れてしまう子どもたちです。子ども達が日々身近に接している飼育物、経験した事を、画用紙一杯に表現してくれれます。

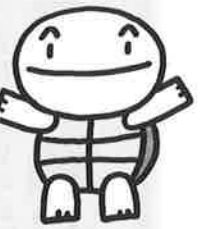
これからも、保育士が研鑽し子ども達のびのび表現出来る様、乳幼児期にかけがえのない活動になるように日々研修等積み重ねて努力していきます。



●クラブ紹介●

法人内サークル 「子育てサークル」

京都老人ホーム 長嶋 智子



法人内には、色々なサークルがありますが、今回は、子育てサークルについてご紹介させて頂きます。

子育てサークルは、平成21年6月に発足しました。当初は、法人が子育て中の職員を対象に職員間の交流・親睦を目的に座談会を実施されたのがきっかけで、サークル登録の呼びかけをしました。メンバーの子供さんは、1才〜小学生中学年まで、子供の年齢層が幅広く13名の方が賛同され現在に至っています。



▲おいしいたこ焼を作ろう！



▲クリスマス会でマカロニを使って「リース作り」

ゆつくり過ごすなどの設定をしています。

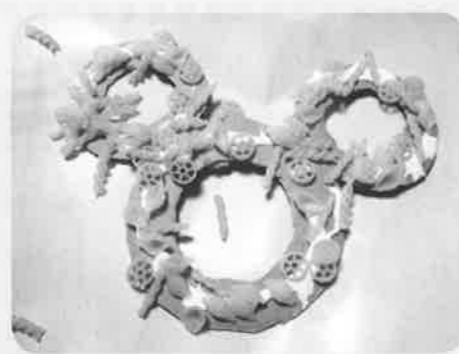
前回の「たこ焼き」では、親が材料を刻み、小学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんを中心になって、焼いてくれました。3台のプレートを使ったら、ブレーカーが落ちてしまった事も…何回か会を重ねるごとに子供達も慣れてきて、とっても上手に美味しく焼いてくれました！

子育てサークルは、大人だけの集まりではなく、子供も一緒ですので、実施当日になって、「子供が熱を出して…嘔吐があつて…」また、冬になりますと、インフルエンザ等の感染症で、または、習い事等で参加者が3、4組という

事もあります。ですから、集まれる人だけ集まって、大人は、子育てについての情報交換や井戸端会議、子供は、子供同士、楽しく過ごしています。

法人には、子育て中の職員さんが、たくさんおられます。また、妊娠・出産後、育児を終えて復帰される方も年々増えています。

子育てしながら、仕事・家事をする事は大変ですが、家族・職員間の協力があつてこそ、頑張つて続けられるのだと思います。法人内の事業所もたくさんあり、なかなか自分の事業所以外の職員さんと会う事が無い為、サークルを通じて、職員間の親睦が図れ嬉しく思います。



▲ミッキー型リースの出来あがり!!



「今を生きる」

施設部長

橋川光一郎



現在、施設事業部では、「認知症ケア」「看取りケア」に力を入れています。介護保険制度の中で国は、「住み慣れた地域で最後まで暮らし続ける」ことを可能にするために小規模多機能型施設や24時間対応型訪問介護など地域密着型サービスを導入しました。今後増え続けると思われるが、現時点ではまだまだ量・質ともに浸透していないのでは？ というのが正直な思いです。低所得者の方にとっては、従来からの在宅が無理なら施設へ、という選択肢しかないようにも思えます。であれば、我々特養ホームの存在意義を考えた時に「認知症ケア」「看取りケア」の質を向上させていくことが使命だと考えています。

先日、アップル社の最高経営責任者であるステイブ・ジョブズ氏が亡くなりました。氏は、「毎日が生きている最後の日」と思つて行動せよ」ということをおっしゃられています。当施設のある委員会の中で「死」について考えた時、結局、毎日を自分らしく悔いのないように生きること、「生」が大事なんだと気付かされました。上記の氏の言葉には通じるところがあるなあと感じています。

縁あつて京都老人ホームに来ていただいた皆さんにホームという「いえ」で「普通の暮らし」をし、満足した一生だったと思つていただけるために、さらなる努力をしていきます。

～職員紹介～

毎日が勉強

小栗栖の家ほっこり

小瀬 南

こんにちは。

今年の四月から就職してお世話になっております小瀬南です。

小栗栖の家ほっこりで介護職として働いております。初めは特養で働いていたのですが、七月から小規模多機能に配属になりました。私は学生時代、特養でバイトしていたので特養のことはなんとなく分かっていました。小規模は何もかもが初めての体験です。

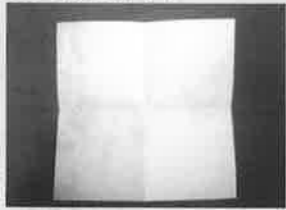
特養では毎日顔を合わせる方が同じですが、小規模では毎日違う利用者者と顔を合わせるため、毎日フロアの雰囲気が変わります。初めはその雰囲気になじめず戸惑うことが多かったですが、毎日違う時間の過ごし方ができるので、それはそれで楽し

いかなと思つて、明日はあの方とどんな過ごし方をしようかな？ あの方が退屈しない時間の過ごし方ってどんなかな？ などと考えています。しかしまだまだ分からないことがいっぱい!! 先輩職員の方々の動きをみて、あなるほどな。と勉強する毎日です。利用者から教えて頂くことで昔の時代背景を学べたり、その方の生活背景がみえてきたり、ゆつくり関わり、話すことから見えるものも多くあるのだなど感じました。毎日少しずつ勉強しながら、知識を蓄えていき、一人前の介護職員になれるように励んでいきます。

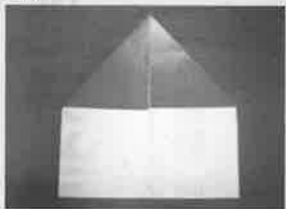


サンタクロースの つくりかた

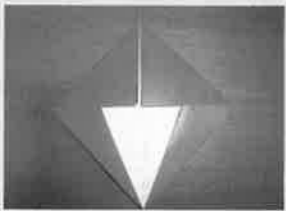
①折り筋を付ける



②線に合わせて折る



③巻くようにして折る



④裏返す



⑤真ん中の線に合わせて折る



⑥顔をかいて出来上り

